

令和 5 年 5 月 23 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14446

研究課題名(和文) 大学生の心理 - 精神症状指標を用いたカットオフ値の同定とカウンセリング効果の検証

研究課題名(英文) Establishing the cut-off point for the Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms (CCAPS-Japanese) and verification of the effectiveness of student counseling

研究代表者

堀田 亮 (HORITA, Ryo)

岐阜大学・保健管理センター・准教授

研究者番号：10733074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はCounseling Center Assessment of Psychological Symptoms日本語版(CCAPS-Japanese)をデータベース化できるWeb回答システム「CCAPS internet-based Quick Assessment System(CCAPS-iQAS)」を開発できた。また、CCAPS-Japaneseのカットオフ値を同定できた。加えて、中長期的な支援を要する学生は短期で終了する学生に比べて、初回来談時のCCAPS-Japaneseの学業ストレス因子、社会不安因子、希死念慮項目が高い傾向にあることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

CCAPS-iQASの開発により、CCAPS-Japaneseのデータベースを構築することができるようになった。加えて、要支援学生の早期発見、支援体制の構築と、介入効果の可視化が期待できる。結果が即時フィードバックされるため、回答学生は自身の精神的健康状態への理解を深めることができる。統計学的に日本人学生に適したカットオフ値を同定できたことにより、高ストレス状態の学生や精神疾患の可能性のある学生を判別する際の参考指標として本結果を活用できる。また、支援が中長期化する可能性のある学生の特徴を明らかにできたことは、学生相談機関における担当者ごとの予約枠の調整、ケース数の偏りの是正に貢献できる。

研究成果の概要(英文)：This study has developed the CCAPS internet-based Quick Assessment System (CCAPS-iQAS), a web-based response system that can be used to create a database of the Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms Japanese version (CCAPS-Japanese). Cut-off score for each factor of CCAPS-Japanese were identified. Students with high scores of CCAPS-Japanese academic distress factor, social anxiety factor, and suicidal ideation item at their initial visit are likely to require medium- to long-term psychological support.

研究分野：臨床心理学

キーワード：心理アセスメント 学生相談 臨床心理学 カウンセリング ウェブシステム

## 1. 研究開始当初の背景

高等教育機関における学生への心理的支援の充実のためには、適切な基準を用いて支援を必要とする学生を抽出し、早期発見・早期支援につなげることが求められる。そして、支援した学生の心理-精神症状の変化やその後の適応を追跡し、介入効果を実証的かつ客観的に提示することは、支援機関の費用対効果を示す上で重要である。

本邦では、主に精神的健康のスクリーニングを目的に、K10 や UPI など様々な症状評価尺度が用いられてきた。しかし、これらの尺度では調査対象を一般成人に想定して作成しているため大学生特有の心理-精神症状やストレスを多次元的に測定できない、日本語版しか存在しないため国際比較ができないという問題点があった。

これらの問題点を解消するのが本研究で着目する Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms 日本語版 (CCAPS-Japanese) である。CCAPS は大学の学生相談現場での使用を想定し、大学生の精神・心理症状を包括的に測定でき、スクリーニングとしても治療プロセスの評価としても使用可能な臨床症状評価尺度である (Locke et al., 2011)、CCAPS-Japanese は 8 因子 (抑うつ、全般性不安、社会不安、学業ストレス、食行動、家族ストレス、敵意、飲酒) 55 項目から構成され、信頼性と妥当性が実証されている (Horita et al., 2020, 2021)。

そこで、本研究では、CCAPS-Japanese を用いて高等教育機関の心理支援に関する研究における 3 つの課題を検証することとした。その 3 つとは、支援や研究を進展させるための基盤となる CCAPS-Japanese のデータベース化がなされていないこと、CCAPS の原版にはカットオフ値は存在するが、CCAPS-Japanese のカットオフ値は同定されていないこと、CCAPS-Japanese を用いた学生相談の効果や支援への影響因は検討されていないことであった。

## 2. 研究の目的

- 本研究は (1) CCAPS-Japanese のデータを蓄積できる Web 回答システムを開発すること、(2) CCAPS-Japanese 各因子のカットオフ値を理論的根拠に基づいて実証的に同定すること、(3) CCAPS-Japanese を用いて学生相談の支援期間の影響因を検討することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) CCAPS-Japanese の Web 回答システム (CCAPS-iQAS) の開発

2020 年 10 月に研究代表者の所属校の産学官連携推進部門に本システムの構想および価値を提案し、企業選定を依頼した。その結果、システム開発企業 A が共同開発に名乗りを上げ、2020 年 11 月よりシステム開発に着手することとなった。システムはアジャイル型の開発手法を採用した。システム名を「CCAPS internet-based Quick Assessment System (CCAPS-iQAS)」とした。

### (2) CCAPS-iQAS の実用性の検証

概要：CCAPS-iQAS は紙筆版と比べて心理統計的に等価であるかの検討はなされていない。加えて、ユーザにとっての使いやすさや満足度の評価も行われていない。そこで、本研究は CCAPS-iQAS を通して CCAPS-Japanese の測定を行った場合の再検査信頼性を検討することと、ユーザ満足度評価を行うことで、CCAPS-iQAS の実用性を実証することを目的とした。

対象者：2022 年 10 月に A 大学の学生 43 名 (男性 22 名、女性 21 名、平均年齢 19.2 歳) を対象に調査を行った。

調査内容：対象者は CCAPS-iQAS を通して CCAPS-Japanese に回答した後に、その 1 週間後に再び同じ手続きで回答した。合わせて、1 回目の CCAPS-iQAS を利用した直後にユーザ満足度を評価する System Usability Scale (SUS; 山内, 2015) に回答した。SUS スコアは 100 点満点として得点を算出した。

### (3) CCAPS-Japanese のカットオフ値の検討

概要：CCAPS-Japanese は信頼性、妥当性は実証されているものの、各因子のカットオフ値に関しては、米国人学生を対象として同定された値 (McAleavey, et al., 2012) を用いてきた。心理・精神症状の程度は文化差があることも推察されるため、日本人学生に適した基準を設定することが必要である。そこで、本研究では CCAPS-Japanese の各因子のカットオフ値を同定することを目的とした。

対象者：CCAPS-Japanese の因子に相当する精神疾患 (大うつ病性障害、全般性不安障害、社交不安障害、摂食障害) の診断を受けている大学生のデータを各 50 名収集するために、以下の 3 つの調査を実施した。2019、2020、2021 年度に A 大学の学生相談を利用した学生の内、同意の取れた学生 418 人に初回来談時に調査を実施した。2020 年 1 月に (株) マクロミルのモニター 248 人、2021 年 7 月に (株) 楽天インサイトのモニター 500 人に対して調査を実施した。これらに重複する対象者はいなかった。以上の手続きを経て、1,166 人 (男性 428 人、女性 734 人、不明 4 人、平均年齢  $21.2 \pm 2.5$  歳) を分析対象とした。

調査内容：CCAPS-Japanese への回答を求めた。抑うつ、全般性不安、社会不安、食行動因子は、Receiver Operating Characteristic (以下、ROC) 分析を実施した。曲線下面積 (Area Under the Curve : AUC) にて回帰モデルの適合性を判定し、感度と特異度を基に Youden Index を用いて、各精神疾患のカットオフ値を算出した。その他の 4 つの因子はパーセンタイルスコアを用いてカットオフ値を検討した。

#### (4) 初回の CCAPS-Japanese 得点と支援期間の関連の検討

概要：学生相談には多種多様な悩みを抱えた学生が訪れ、来談回数や期間は様々である。そこで、CCAPS-Japanese を用いて、支援が中長期化する学生は短期間で終了する学生と比較し、初回来談時の精神的健康度にどのような特徴があるか明らかにすることを目的とした。

対象者：2021 年度に A 大学の学生相談を新規に利用した学生のうち、調査実施の同意の得られた 141 人を本研究の分析対象者とした。

調査内容：初回来談時に CCAPS-Japanese への回答を求めた。支援期間は 45-50 分間の学生相談を利用した回数を数えた。キャンセルに関しては、事前連絡あり、なしに拘らず回数に入れなかった。本研究では、3 回以内で相談を終了した学生を「短期終了群 (61 人)」、それ以外を「中長期継続群 (80 人)」の 2 群に分けた。

### 4. 研究成果

#### (1) CCAPS-Japanese の Web 回答システム (CCAPS-iQAS) の実装

2021 年 2 月より CCAPS-iQAS を岐阜大学で実装することができた。本システムは回答学生への結果の即時フィードバック機能と、結果の推移を確認できるプロフィールレポートの作成機能を搭載した点に特長があった。これにより、回答学生は自身の精神的健康状態への理解を深めることができ、必要に応じた援助要請行動の促進につながると考えられる。また、支援者にとっては CCAPS-Japanese のデータベース化のみならず、要支援学生の早期発見、支援体制の構築と、カウンセリング効果の可視化が期待できる。CCAPS-iQAS は他大学でも展開されており、2023 年 5 月現在で、岐阜大学の他に 5 つの機関で導入されている。また、CCAPS-iQAS の Web サイト (<https://ccaps.benkyoenkai.org>) を開設することができた。

#### (2) CCAPS-iQAS と紙筆版の等価性および CCAPS-iQAS の高いユーザ満足度の実証

CCAPS-iQAS と紙筆版の等価性を検討するために、両者の 1 回目と 2 回目の各因子ごとの平均値に関して相関係数を算出し、再検査信頼性を検討した。その結果、CCAPS-iQAS で測定したすべての因子で相関係数の値は有意で、紙筆版の結果とも近似していた。また、SUS スコアは 78.0 点で、概ね高い満足度の水準であり、ユーザにとって使いやすいシステムであることが示された。以上より、CCAPS-iQAS は実用性のあるシステムであることが実証された。

#### (3) CCAPS-Japanese のカットオフ値の同定

ROC 分析の結果、抑うつは 1.91 (AUC=0.76、感度 0.84、特異度 0.57)、全般性不安は 2.00 (AUC=0.70、感度 0.77、特異度 0.58)、社会不安は 2.33 (AUC=0.67、感度 0.74、特異度 0.50)、食行動は 1.75 (AUC=0.76、感度 0.83、特異度 0.54) であった。パーセンタイルスコアは CCAPS 原版の算出基準 (McAleavey, et al., 2012) に倣い、最小値から累積 70% となる値をカットオフ値とした。以上より、統計学的に日本人学生に適したカットオフ値が同定された。値は原版と概ね近似しており、極めて強いストレスを抱えている学生や精神疾患の可能性のある学生を判別する際の参考指標として本結果を活用できる。全因子のカットオフ値を表 1 に示す。

表1 CCAPS-JapaneseとCCAPSのカットオフ値

	CCAPS-Japanese	CCAPS
抑うつ	1.91	1.70
全般性不安	2.00	1.70
社会不安	2.33	2.50
食行動	1.75	1.80
家族ストレス	1.67	1.83
学業ストレス	2.67	2.40
敵意	1.71	1.43
飲酒	0.80	1.40

注) CCAPSの値はMcAleavey, et al. (2012)より

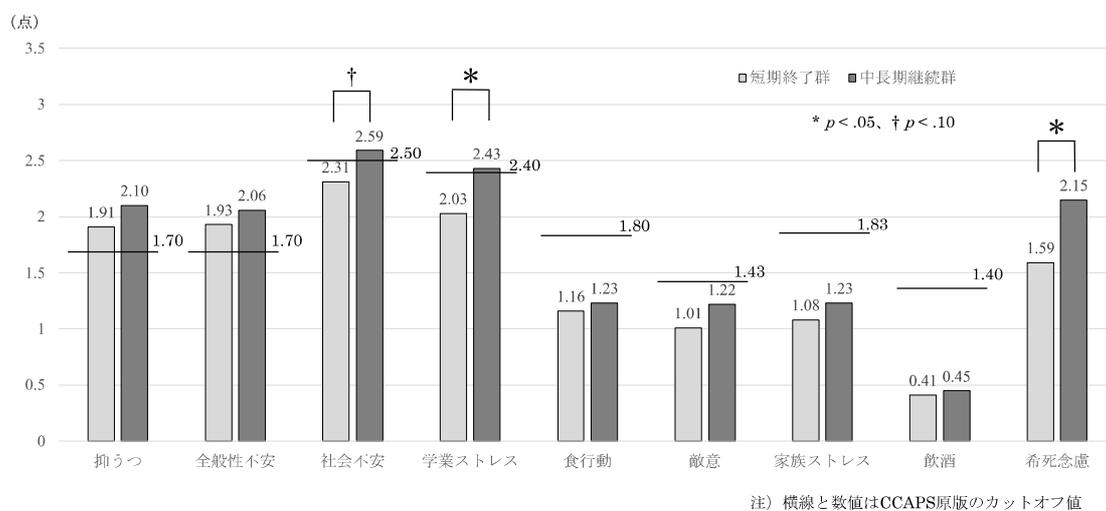
#### (4) 初回の CCAPS-Japanese 得点と支援期間の関連の解明

CCAPS-Japanese の各因子および希死念慮項目に関して平均値を算出した結果、すべてにおいて「短期終了群」よりも「中長期継続群」が高い値を示した。抑うつと全般性不安因子は短期終了群、中長期継続群ともにカットオフ値 (抑うつ : 1.70、全般性不安 : 1.70) を超えていた。加えて、中長期継続群は、社会不安 (2.50) と学業ストレス (2.40) もカットオフ値を超えていた。

両群を対応のない t 検定 (Bonferroni 法) で比較した結果、学業ストレスと希死念慮項目は、「短期終了群」よりも「中長期継続群」が 5%水準で有意に高い得点だった (順に  $t(139) = 2.12$ 、 $t(139) = 2.49$ )。社会不安でも同様の傾向が推察された ( $t(139) = 1.86$ 、 $p < .10$ )。その他の因

子に有意差はなかった。結果を図1に示す。

図1 短期終了群と中長期継続群のCCAPS-Japanese得点の比較



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 堀田亮	4. 巻 63
2. 論文標題 コロナのココロとコミュニケーション	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 604-609
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田亮	4. 巻 43
2. 論文標題 CCAPS ウェブ回答システム(CCAPS-iQAS)の開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 182-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田亮, 川上ちひろ, 瀬戸山陽子, 菰田孝行, 恒川幸司	4. 巻 22
2. 論文標題 学生支援とIR の連携: 保健管理分野から見た現在地、可能性、課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新しい医学教育の流れ	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田亮	4. 巻 3481
2. 論文標題 COVID-19感染拡大前後の比較から見る大学生メンタルヘルス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学界新聞	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田亮	4. 巻 56
2. 論文標題 学生相談の存在意義を『見える化』する：個別相談の評価の観点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第56回全国学生相談研究会報告書	6. 最初と最後の頁 33-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Horita、Akihiro Nishio、Mayumi Yamamoto	4. 巻 17
2. 論文標題 Lingering effects of COVID-19 on the mental health of first-year university students in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0262550
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0262550	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 西城卓也、堀田亮、藤江里衣子、下井俊典、清水郁夫、川上ちひろ	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 困難な状況にある学習者へのアプローチを再考する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤江里衣子、川上ちひろ、堀田亮、西城卓也	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 「勉強がうまく進まない、試験に合格できない医療系学生」の理解と支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田亮、川上ちひろ、藤江里衣子、西城卓也	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 「臨床実習においてコミュニケーションがうまくできない医療系学生」の理解と支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上ちひろ、堀田亮、藤江里衣子、西城卓也	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 「臨床現場で業務がうまくこなせない新人医療者」の理解と支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Horita, Akihiro Nishio, Aki Kawamoto, Tadahiro Sado, Benjamin D. Locke, Mayumi Yamamoto	4. 巻 -
2. 論文標題 Validity and Reliability of the Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms-Japanese Version	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ryo Horita, Akihiro Nishio, Mayumi Yamamoto	4. 巻 295
2. 論文標題 The effect of remote learning on the mental health of first year university students in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry Research	6. 最初と最後の頁 113561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田亮	4. 巻 41
2. 論文標題 発達障害特性のある学生への地域連携就労支援：地方都市における試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 95-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Horita, Aki Kawamoto, Akihiro Nishio, Tadahiro Sado, Benjamin D. Locke, Mayumi Yamamoto	4. 巻 27
2. 論文標題 Development of the Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms Japanese version: Pilot study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical Psychology & Psychotherapy	6. 最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cpp.2412	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 堀田亮, 西尾彰泰, 栗木由美子, 今村七菜子, 加納亜紀, 山本眞由美	4. 巻 56
2. 論文標題 大学入学時の精神的健康度と休学・退学・留年状況の関連	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CAMPUS HEALTH	6. 最初と最後の頁 205 - 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本眞由美, 丸谷俊之, 柳元伸太郎, 堀田亮, 中川克	4. 巻 56
2. 論文標題 George Washington UniversityおよびAmerican Universityの保健管理施設見学の報告 国際連携委員会より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CAMPUS HEALTH	6. 最初と最後の頁 268 - 273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木恵理, 堀田亮, 西尾彰泰, 山本真由美	4. 巻 56
2. 論文標題 大学新入生の首尾一貫感覚 (SOC) と生活習慣, 精神的健康度との関連	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CAMPUS HEALTH	6. 最初と最後の頁 199 - 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾彰泰, 堀田亮	4. 巻 56
2. 論文標題 地方都市における地域連携型の障害学生就労支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CAMPUS HEALTH	6. 最初と最後の頁 70 - 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Horita R, Nishio A, Yamamoto M
2. 発表標題 The Impact of the COVID-19 Pandemic on the Mental Health of First-Year University Students in Japan: A Comparative Study from 2019 to 2021
3. 学会等名 American College Health Association Annual Meeting 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田亮
2. 発表標題 障害のある医療系学生の支援の現状
3. 学会等名 第56回医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田亮, Natlie Nagib, 今村七菜子, 岡本綾子, 栗木由美子, 足立美穂, 田尻下聡子, 三輪貴生, 山本眞由美
2. 発表標題 COVID-19のパンデミックが大学生の精神的健康に与えた影響：感染拡大前後の比較から
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今村七菜子, 堀田亮, 栗木由美子, 岡本綾子, 足立美穂, 三輪貴生, 田尻下聡子, 山本眞由美
2. 発表標題 学生の心理的な相談において短期でニーズに応えることのできた場合の支援方法の特徴
3. 学会等名 第60回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田亮, 今村七菜子, 栗木由美子, 岡本綾子, 足立美穂, 三輪貴生, 田尻下聡子, 山本眞由美
2. 発表標題 中長期的な心理支援に至る学生はどのような特徴を有しているのか
3. 学会等名 第60回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田亮, 今村七菜子, 岡本綾子, 栗木由美子, 足立美穂, 三輪貴生, 田尻下聡子, 深尾琢, 山本眞由美
2. 発表標題 CCAPS-iQASの実用性に関する検討(1)：再検査信頼性とユーザ満足度の観点から
3. 学会等名 第44回全国大学メンタルヘルス学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Horita R, Nishio A, Yamamoto M
2. 発表標題 The Impact of the COVID-19 Pandemic on the Mental Health of First-Year University Students: Comparison Between 2019 and 2020.
3. 学会等名 American College Health Association, Virtual Annual Meeting, 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀田亮
2. 発表標題 コロナ禍の学生支援の勘所
3. 学会等名 大学教育改革フォーラムin東海2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田亮, 西尾彰泰, 今村七菜子, 岡本綾子, 足立美穂, 田尻下聡子, 栗木由美子, 山本眞由美
2. 発表標題 COVID-19のパンデミックは大学生のメンタルヘルスにどのような影響を与えたのか? : 3年間の新入生データの比較から
3. 学会等名 第43回全国大学メンタルヘルス学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀田亮, 下山吉洋, 佐野初夫, 坪井成吉, 今村七菜子, 岡本綾子, 栗木由美子, 西尾彰泰, 山本眞由美
2. 発表標題 CCAPSウェブ回答システムの開発: メンタルスクリーニングと介入効果測定のために
3. 学会等名 第59回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀田 亮, 西尾 彰泰, 栗木 由美子, 今村 七菜子, 加納 亜紀, 山本 真由美
2. 発表標題 大学閉鎖に伴う自宅待機を経験した新入生の精神的健康度の特徴：前年度との比較から
3. 学会等名 第58回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀田亮
2. 発表標題 Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms-Japaneseの妥当性の検討
3. 学会等名 日本学生相談学会第38回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀田亮
2. 発表標題 CCAPS-Japaneseによる心理・精神状態のアセスメントの新たな可能性
3. 学会等名 全国大学保健管理協会第57回東海・北陸地方部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀田亮
2. 発表標題 学生相談におけるビッグデータ蓄積の意義と活用
3. 学会等名 甲南大学学生相談室特別公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------